

PEEP バルブつき蘇生バッグによる肺胞拡張訓練

(一般患者様用)

1. 目的

- 1) 肺胞拡張・無気肺予防
- 2) 肺の柔軟性の維持
- 3) 肺痰援助

2. 必要物品

- ①PEEP バルブつき蘇生バッグ
- ②フィルター
- ③マスク
- ④吸引チューブ(必要時)
- ⑤脈拍、SpO₂ モニタ(必要時)



3. 方法

PEEP バルブつき蘇生バッグによる肺胞拡張訓練設定表に沿って実施します。

- 1) 患者に PEEP バルブつき蘇生バッグによる肺胞拡張訓練を行うことを説明し、同意を得ます。
- 2) 体位を整えます。
- 3) 脈拍、SpO₂ モニタを装着し、必要時(痰が絡んでいる時、口腔内に唾液が貯留している時)は吸引を行います。
- 4) POP-OFF バルブの矢印を患者側接続部の方向に向けロックをオフにする。
- 5) PEEP バルブの設定を行う。(cmH₂O)

PEEP バルブ

- ・排気側に装着します。
- ・5~20 cmH2O に調節できます。
(原則は 20 cmH2O)
- ・気道内の圧が設定圧になるまで排気しないようにしています。



POP-OFF バルブ

- ・送気側に装着します。
- ・気道内の圧が 40 cmH2O or 60 cmH2O 以上にならないようにしています。

6) 自力で息を吸って止めてもらいます。

7) ①マスクを密着させ、②PEEP バルブから空気がもれるまで送気します。③PEEP バルブから空気がもれはじめたら、④5秒程度息溜めをした後に PEEP バルブを外し、排気します。

①マスクをしっかり密着させます。

②PEEP バルブから空気がもれるまで連続的に送気します。



③PEEP バルブから空気がもれ始めることを確認します。

④5秒程度息溜めをした後に、PEEP バルブを外し、排気します。

※抵抗を感じたり、苦痛が生じたらすぐに PEEP バルブを外す、または蘇生バッグを外し、圧を解除してください。

8) 7) の①から④の手順を繰り返し行います。

9) 体位を整えます。

リハビリ中の注意点

- ※リハビリ前、中、後は患者の表情、様子を見ながら実施しましょう！
- ※リハビリ前、中、後を通し、患者に声かけをしながら実施しましょう！
- ※リハビリ前、中、後を通し、SpO₂ モニタをみながら実施しましょう！



様の、

PEEP バルブつき蘇生バッグによる肺胞拡張訓練設定表

PEEP 圧	cmH ₂ O	
PEEP バルブから空気がもれる までの蘇生バッグを押す回数	約	回
排気までの時間	約	秒
実施回数	約	回
その他留意点		

PEEPバルブつき蘇生バッグ／チェックリスト（カルテ保管用）

<一般患者様用>

	チェック項目／日付	/	/	/	備考
知識	必要物品(マスク、フィルタ、SpO2 モニタ)、PEEPバルブ付き蘇生バッグ、を準備できる				
	POP-OFFバルブ、PEEPバルブ、患者側接続部がどれであるか言える				
	POP-OFFバルブの設定は40cmH2Oまたは60cmH2Oどちらを使用しているか確認できる。				
	PEEPバルブの設定は5～20cmH2Oであることを確認できる				
	本蘇生バッグは気道内圧をPEEP設定値に保つ(Pop-offバルブを上回ることがない)ことが言える。換気補助に蘇生バッグを用いる時はPEEPバルブをつけないことが言える(設定圧まで排気できないため)				
	POP-OFFバルブの矢印を患者側接続部の方向に向けロックをオフにすることができる				
	PEEPバルブの頭の部分を回して、指定の圧力数値に設定することができる				
	マスクを密着させ、蘇生バッグで連続的に送気することができる				
	蘇生バッグで連続的に送気し、PEEPバルブから空気がもれることを確認できる				
手順	実施してよいか聞くことができる				
	患者を仰臥位にすることができる				
	口腔内吸引をすることができる				
	マスクを密着し装着できる				
	蘇生バッグでPEEPバルブから空気が漏れるまで連続的に送気することができる。抵抗を感じたり患者に苦痛が生じたらすぐにPEEPバルブを外す、または蘇生バッグを外し(回路を解放)圧を解除できる。				
	PEEPバルブから空気が漏れたら送気を中止し、約5秒間息溜めしてからPEEPバルブを外し、排気することができる。				
	3～5回実施する				
	実施後必要であれば吸引をすることができる				
	実施前、中、後の患者の表情、様子を見ながら実施することができる				
実施前、中、後を通し、患者に声かけをしながら実施することができる					
実施前、中、後を通し、SpO2モニタをみながら実施することができる					

患者氏名 ()

評価基準 ○：できている

×：できていない（再指導が必要）

PEEP バルブつき蘇生バッグによる肺胞拡張訓練

(気管切開患者様用)

3. 目的

- 4) 肺胞拡張・無気肺予防
- 5) 肺の柔軟性の維持
- 6) 肺痰援助

4. 必要物品

- ①PEEP バルブつき蘇生バッグ
- ②テストラング
- ③フィルター
- ④カフエア注入用シリンジ (必要時)
- ⑤吸引チューブ (必要時)
- ⑥脈拍、SpO₂ モニタ
- ⑦フレックスチューブ・回転コネクタ(必要時)



3. 方法

PEEP バルブつき蘇生バッグによる肺胞拡張訓練設定表に沿って実施します。人工呼吸器の電源は ON のままで実施します。

- 1) PEEP バルブつき蘇生バッグによる肺胞拡張訓練行うことを説明し、同意を得ます。
- 2) 体位を整えます。
- 3) 脈拍、SpO₂ モニタを装着し、必要時(痰が絡んでいる時)は吸引を行います。
- 4) カフエアを注入または入れかえをします。(ml)
- 5) POP-OFF バルブの矢印を患者側接続部の方向に向けロックをオフにします。
- 6) PEEP バルブの設定を行います。(cmH₂O)

PEEP バルブ

- ・排気側に装着します。
- ・5~20 cmH₂O に調節できます。
(原則は 20 cmH₂O)
- ・気道内の圧が設定圧になるまで排気しないようにしています。



POP-OFF バルブ

- ・送気側に装着します。
- ・気道内の圧が 40 cmH₂O or 60 cmH₂O 以上にならないようにしています。

7) 気管カニューレと人工呼吸器の接続を外し、人工呼吸器にテストラングを装着します。



8) ①蘇生バッグを気管カニューレに接続し、②送気し、③PEEP バルブから空気のもれ始めたら、④5秒程度息溜めした後に PEEP バルブを外し、排気します。

①フレックスチューブまたは直接フィルターをつけて気管カニューレに蘇生バッグを装着します。

②PEEP バルブから空気もれるまで連続的に送気します。



③PEEP バルブから空気がもれ始めることを確認します。

④5 秒程度息溜めした後に、蘇生バッグと PEEP バルブの接続部を外し、排気します。



9) 8) の①から④の手順を繰り返し行います。

※抵抗を感じたり、苦痛が生じたらすぐに PEEP バルブを外す、または蘇生バッグを外し、圧を解除してください。

10) 人工呼吸器を気管カニューレに装着し、人工呼吸器作動状況を確認します。

11) 体位を整えます。

リハビリ中の注意点

- ※リハビリ前、中、後は患者の表情、様子を見ながら実施しましょう！
- ※リハビリ前、中、後を通し、患者に声かけをしながら実施しましょう！
- ※リハビリ前、中、後を通し、SpO₂ モニタをみながら実施しましょう！



様の、

PEEP バルブつき蘇生バッグによる肺胞拡張訓練設定表

PEEP 圧	cmH ₂ O	
フレックスチューブ+回転コネクタ	つける	・ つけない
PEEP バルブから空気がもれるまでの蘇生バッグを押す回数	約	回
排気までの時間	約	秒
実施回数	約	回
カフエア	ml	
その他留意点		

PEEPバルブつき蘇生バッグ／チェックリスト（カルテ保管用）

<気管切開患者様用>

	チェック項目／日付	/	/	/	備考
知識	必要物品(患者個人用(回転コネクタ、フレキシブルチューブ)、フィルタ、テストラング、SpO2 モニタ)、PEEPバルブ付き蘇生バッグ、を準備できる				
	POP-OFFバルブ、PEEPバルブ、患者側接続部がどれであるか言える				
	POP-OFFバルブの設定は40cmH2O または 60 cmH2O どちらを使用しているか確認できる。				
	PEEPバルブの設定は5～20cmH2O であることを確認できる				
	本蘇生バッグは気道内圧をPEEP設定値に保つ(POP-OFFを上回ることがない)と言える。換気補助に蘇生バッグを用いる時はPEEPバルブを外して用いると言える(設定圧まで排気できないため)				
	POP-OFFの矢印を患者側接続部の方向に向けロックをオフにすることができる				
	PEEPバルブの頭の部分を回して、指定の圧力数値に設定することができる				
	フィルタ、(フレキシブルチューブ、回転コネクタ、)テストラグを患者側接続部に接続できる				
	蘇生バッグで連続的に送気し、PEEPバルブから空気がもれることを確認できる				
	手順	実施してよいか聞くことができる			
患者を仰臥位にすることができる					
気管吸引をすることができる					
呼吸器をはずし、カニューレ口に蘇生バッグに接続しているフィルタまたはフレックスチューブを接続することができる					
蘇生バッグでPEEPバルブから空気が漏れるまで連続的に送気することができる。抵抗を感じたり患者に苦痛が生じたらすぐにPEEPバルブを外す、または蘇生バッグを外し(回路を解放)圧を解除できる。					
PEEPバルブから空気が漏れたら送気を中止し、蘇生バッグをつけたまま約5秒間待つことができる					
その後、カニューレ口から蘇生バッグに接続しているPEEPバルブを外して排気し、その後呼吸器を装着することができる					
3～5回実施する					
実施後必要であれば吸引をすることができる					
実施前、中、後の患者の表情、様子を見ながら実施することができる					
実施前、中、後を通し、患者に声かけをしながら実施することができる					
実施前、中、後を通し、SpO2 モニタをみながら実施することができる					
実施中、後に人工呼吸器作動の確認をすることができる					

患者氏名 ()

評価基準 ○：できている

×：できていない(再指導が必要)